

# 長与町公共下水道事業経営戦略

【 概 要 版 】

令和 5 年度

長与町上下水道課

## 1. 事業概要

### ①改定の趣旨

長与町では、平成28年度に「長与町公共下水道事業経営戦略」を策定し、近年の社会変動に係る経営環境が厳しさを増す中であっても、事業、サービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な視点に立った経営を行い、徹底した効率化、経営健全化に取り組んできている。

今後も社会情勢の変化（人口減少等）による下水道使用料の減少、既存施設の改築など経営がより厳しくなることが予想される。従って、下水道事業の持続可能な運営を行うため、経営戦略の見直しを行うものである。

➤ 計画の期間：令和5年度 ～ 令和14年度（10年間）

### ②下水道事業の概要

長与町の下水道事業は、昭和48年度より整備を開始し、令和22年度の整備完了を目標に現在も整備を行っている。現在、計画区域を約945haとし、令和4年度末現在813haが整備済みである。下水道施設の状況を以下に示す。

表 1-1 下水道事業の現状

供用開始年度 (供用開始後年数)	公共：昭和50年度（48年） 特環：昭和62年度（36年）
処理区域内人口密度	公共：53.7人/ha 特環：21.6人/ha
処理区数	公共下水道：1処理区 特定環境保全公共下水道：1処理区_4地区 (本川内～平木場地区、三根～吉無田地区、丸田～岡地区、岡地区)
処理場数	公共下水道：1施設（長与浄化センター）

### ③使用料の現状

長与町の下水道使用料は、基本使用料と従量使用料に区分し設定している。基本使用料に基本水量は無く、従量使用料については、汚水量の増加に伴い単価が高くなる、累進使用料制を採用している。

表 1-2 下水道使用料（税抜）

	汚水量 (m <sup>3</sup> )	金額 (円)
基本使用料	—	960
従量使用料 (1m <sup>3</sup> につき)	1～10	20
	11～30	180
	31～50	190
	51～100	310
	101以上	370

## 2. 将来の事業環境

### ①有収水量の見通し

「長与町人口ビジョン\_R2 改定」では、町の将来人口は減少傾向を示すものと予測されている。下水道整備区域は全体面積に対して 86%進んでおり、面整備による人口増は少なく、宅地造成による若干の増加が見込まれる程度である。したがって今後は、SDGs 等による節水意識の高まりと合わせ、処理場への流入水量も減少していくものと想定される。

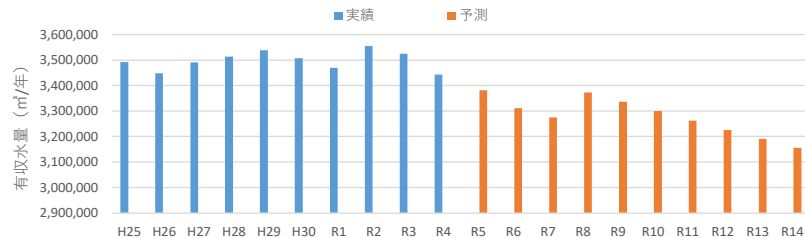


図 2-1 有収水量の推移

### ②使用料収入の見通し

近年の使用料単価は、約 175~176 円/m<sup>3</sup> で推移しており、使用料改定等を行わない場合は、今後も同程度で推移するものと予測される。したがって、使用料収入の将来見通しは、有収水量の推移に伴い減少していくものと予測される。

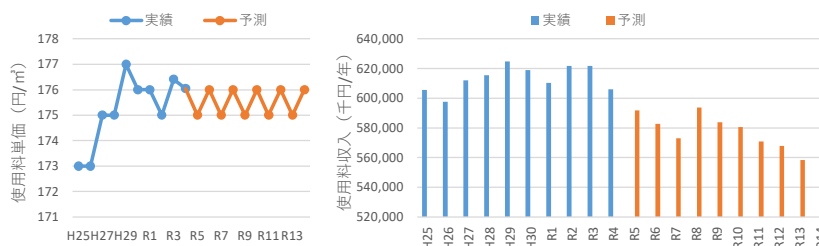


図 2-2 使用料単価と使用料収入の推移

### ③施設の見通し

下水道の施設は供用開始より 48 年が経過しており、整備済区域の汚水処理施設の老朽化対策および改築更新が求められている。

管路施設については、標準耐用年数である 50 年を迎えつつあり、ストックマネジメント計画により効率的・計画的な修繕改築計画を行っている。

処理場施設については、既に必要な施設（水処理・污泥処理）の建設は終了しており、維持管理の段階に移行している。ストックマネジメント計画に準じ、耐震補強を含む設備の改築を行い、構造物および機械設備の長寿命化を行っている。今後も継続的に改築を行い、持続可能な下水道事業の実施を目指す。

### 3. 経営の基本方針

長与町においては今後も持続可能な下水道事業経営を行うため、以下に示す基本方針に基づき、社会環境・経済的環境を注視し、持続可能な事業の実施を目指す。

#### ①経費回収率について

過年度の経費回収率は、100%を達成しており良好な経営状況であると判断できる。今後も経費回収率 100%を目標とし、経営の健全化を図る。

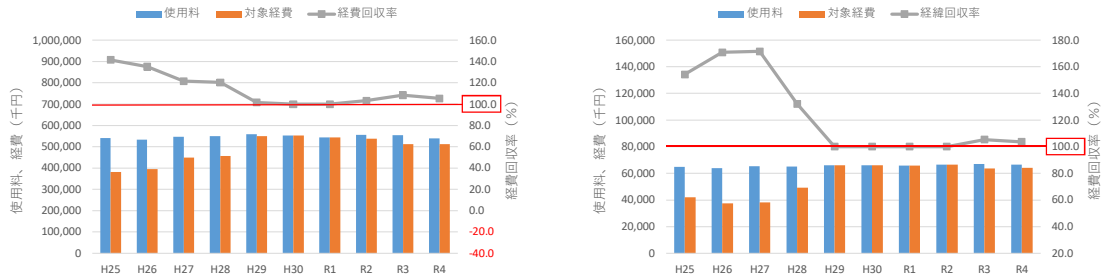


図 3-1 経費回収率の推移 (左：公共、右：特環)

#### ②使用料の改定について

過年度および計画期間においても損失を計上していないことから、現状において下水道使用料の改定は不要であると判断する。今後も毎年度収支計画と決算を比較することにより、どの程度の乖離が生じているかを把握するとともに、経営指標による評価を行い、適正な収支構造について検証を行う。

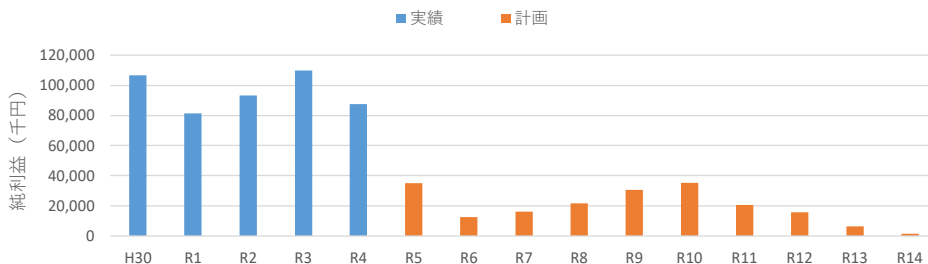


図 3-2 純利益の推移

#### ③下水道施設の老朽化対策について

現在、下水道施設（処理場、管路施設）の老朽化対策については、ストックマネジメント計画の策定を行い、効率的に点検・調査および修繕・改築を実施している。今後も持続可能な下水道事業運営を目指し、適正なリスク管理のもと施設の効率的・計画的な管理を行う。

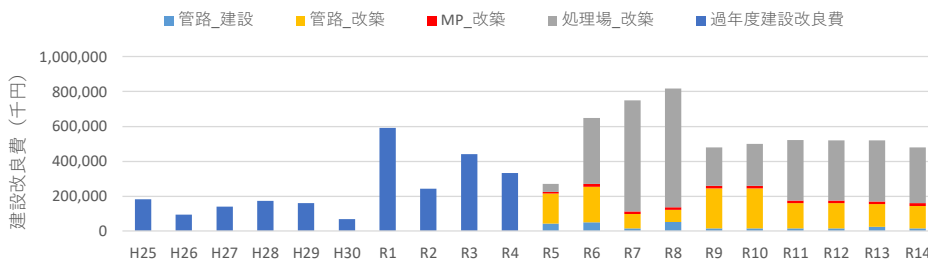


図 3-3 建設改良費の推移

#### 4. 投資・財政計画

収益的収支に関しては、計画期間内の全期間において純利益が発生しており、収支バランスが取れた計画となっている。資本的収支に関しては、処理場施設の改築費が高額となることから、令和 8 年度まで支出が増加傾向となる。

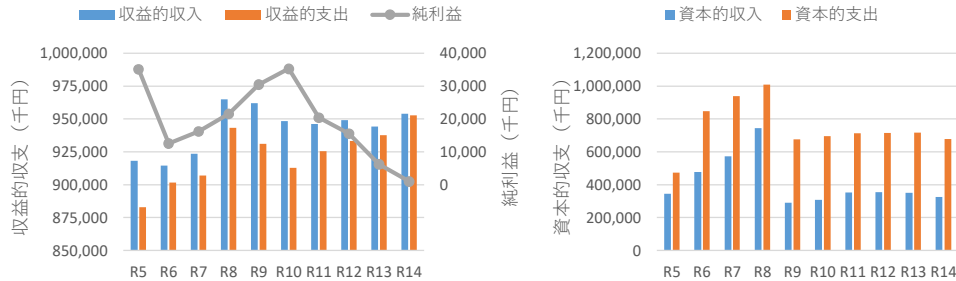
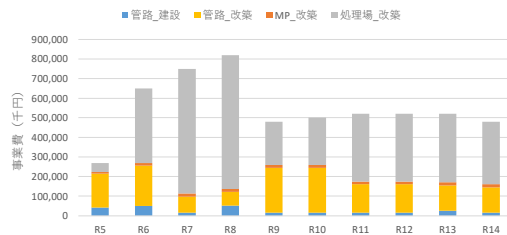


図 4-1 収益的収支および資本的収支の推移

##### ①投資計画について

下水道事業の概成を目指し、下水道区域の整備を進めていく。また、既存施設に関しては、定期的なストックマネジメント計画の見直しを行い、効率的な施設の修繕・改築を実施していく。



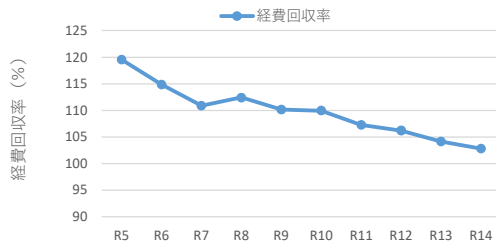
##### 【建設・改築計画】

管路\_建設：15,000～52,000 千円/年  
 管路\_改築：70,000～230,000 千円/年  
 MP\_改築 ※：8,600～15,000 千円/年  
 処理場\_改築：46,000～682,000 千円/年  
 ※MP…マンホールポンプ

図 4-2 建設改良費の推移

##### ②財源計画について

計画期間における経費回収率は 100%以上を維持していることから、使用料改定は必要ないと判断される。今後は使用料収入の減少、物価等の上昇により、経費回収率は悪化していくものと想定される。5 年程度の期間で使用料改定に向けた検討を行い随時対応していくものとする。



##### 【当面の目標】

経費回収率  
 108.1%( R3) ⇒ 110.0%(R9)  
 使用料単価  
 176.4 円/m<sup>3</sup>(R3)  
 ⇒ 176.0 円/m<sup>3</sup>(R9)

図 4-3 経費回収率の推移

企業債残高は、28 億円から 32 億円へと増加する見込みとなる。今後は将来世代への過度な負担とならないよう、企業債の発行額は必要最低限の範囲内に抑え、ストックマネジメント計画の見直し等により年間投資額の平準化に努める。

## 5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

### ①経営の指標と目標値について

本計画を確実に実施するため、経営指標を分析し、PDCA サイクルに基づき計画、実施、検証を行い、事業の改善を図る。

経費回収率については現状 100%を上回っており、今後も 100%を超える安定的な事業運営に努めるものとする。使用料単価については、現状の有収率を維持し適正な単価設定に努め、汚水処理原価については、経営の効率化により、使用料単価を上回らないよう努めるものとする。

#### 【経営指標（例）】

##### ・経費回収率

汚水処理費に対する下水道使用料による回収率であり、経営状況の健全性を示す指標のひとつ

算出方法：下水道使用料収入／汚水処理費×100

目標(案)：108.1 % (R3) → 110.0% (R9)

※現状を維持し、維持管理の適正化を行い、向上を目指す。

##### ・使用料単価

有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの下水道使用料収入であり、使用料の水準を示す指標

算出方法：下水道使用料収入／年間有収水量×100

目標(案)：176.4 円/m<sup>3</sup> (R3) → 176.0 円/m<sup>3</sup> (R9)

※現状と同じく、適正な使用料収入を目指す。

##### ・汚水処理原価

有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの汚水処理費であり、汚水処理の効率性を示す指標

算出方法：汚水処理費／年間有収水量×1000

目標(案)：169.1 円/m<sup>3</sup> (R3) → 168.0 円/m<sup>3</sup> (R9)

※経営の効率化により、原価低減を目指す。

②進捗管理および継続的な取組みについて

毎年「経営比較分析表」等を用いた事後検証により、各目標値の達成状況の確認を行う。また、その評価結果を翌年度の事業運営に反映させるため、PDCA サイクルの実施を行う。

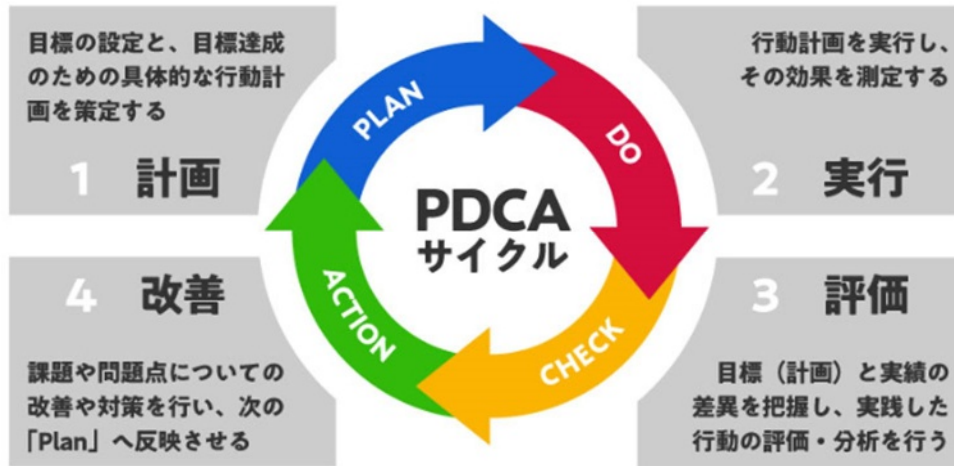


図 5-1 PDCA サイクルの概要

③今後のスケジュール

長与町公共下水道事業では、毎年業務指標の達成状況や今回予測した各計画フレーム値からの乖離の検証を行い、5 年後（令和 10 年度）までに経営戦略および使用料の妥当性・適正化について再検討を行う。

なお、経営状況に大きな変化が生じた場合には、改定スケジュールに関わらず見直しを行うものとする。

表 5-1 今後のスケジュール

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
今期	策定	実施				検証	改善					
次期						改定	実施				改善	
							検証				改定	
											改定	